

9	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15108004	動物インフルエンザウイルスの生態解明と新型ウイルス対策	喜田 宏 (北海道大学・大学院 獣医学研究科・教授)	A/F
<p>(意見等)</p> <p>本研究の課題名「動物インフルエンザウイルスの生態解明と新型ウイルス対策」のうち、「生態解明」については研究代表者らが長年にわたって蓄積してきた成果をベースに、本研究においても世界に誇るべき成果を質量ともにあげたと評価できる。その点では期待以上の進展があった。</p> <p>しかし、「新型ウイルス対策」についてはウイルス本体に対する深い解析が必要であるが、本研究に従事した研究者の得意分野ではないため、「期待したほどではなかったが一応の進展があった」という段階に留まった。</p> <p>よって、総括評価としては、「期待どおり研究が進展した」が妥当と考えられる。</p> <p>特記事項：上記の学術的な評価とは別に、本研究課題において研究分担者による研究費の不正使用が行われていたことが明らかになった。研究分担者によるものとはいえ、本研究課題において、研究費の不正使用が行われたことは、誠に遺憾である。不正に使用された研究費はすでに返還され、不正使用を行った研究分担者の応募資格を一定期間停止したが、研究分担者は猛省し、今後、このようなことが絶対に生じないよう、姿勢を正していただきたい。</p>				
10	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14102031	発光試薬による超高感度核酸解析手法の開発	甲斐 雅亮 (長崎大学・大学院医 歯薬学総合研究科・教授)	B
<p>(意見等)</p> <p>核酸の高感度解析を可能にする新しい手法の開発は、学術的にも社会的にも重要な課題である。DNA チップに応用された新しい化学発光性物質の合成に成功したことは評価できるが、研究の支柱となる「ターゲット DNA の超高感度検出を可能にする化学発光検出用の水溶性高分子プローブの創製」に関する学術論文が無い。そのために評価を下げざるを得ない。</p> <p>本研究課題は核酸の高感度解析技術開発を目指すもので、その波及効果は大きいものである。掲げた目標を達成するための前段階となる研究に進展はあったものの、残念ながら期限内に目標とした新技術の開発には到らなかった。しかし、目標に向かってこれまでの研究基盤を抛り所に懸命に努力したことは十分伺える。今後の展開によって本研究で掲げた目標を達成されることを期待する。</p>				